

平成30年度地方創生推進交付金事業に関する効果検証結果(R1.7.1議会による検証)

No.	交付金種別	対象事業名	交付金を活用して実施した詳細事業	事業の効果に対するコメント	事業見直しの必要性	実績に対するコメント	数値目標に対するコメント	今後の事業実施について	
1	地方創生推進交付金	奥能登国際芸術祭を活用した地域再生モデル構築事業	<p>■第2回奥能登国際芸術祭開催準備事業 事業費:10,000千円(実績10,000千円) 概要:第2回芸術祭開催準備に係る事業を実施 実施主体:奥能登国際芸術祭実行委員会 支出方法:負担</p>	<p>・地域を集中させても良いかもしれない。作品の数も絞る。</p> <p>・芸術祭開催を通して珠洲市全体をアピールするには、作品会場の地域バランスに問題があったので、次回は地域性も考慮してほしい。作品会場の作品にはアーティスト作品にこだわりがあったが、上黒丸のばーちゃんの趣味作品や広栗地内の個人宅の自作作品「家庭内や庭」や古民家などの完成作品等を公募すれば相乗効果が生まれたのではないかと。</p>	必要6	<p>・評価の達成度の検証。</p> <p>・天候に影響されにくいものにすべし。</p> <p>・KPI②(滞在人口数)の達成度が低すぎる。原因調査と対応策等も同時に提示すべき。</p> <p>・会期中の市内への入込み数は大変多くて、一日中賑やかだったが、会期終了後は常設作品の保存が少なかったのか入込み数が激減した。</p>	<p>・とりあえず達成すること。</p> <p>・少なくとも期間中及び終了後見直しをする。</p> <p>・民間の経済効果を数値化し、行政の持ち出し経費を市民が納得出来るようにする必要あり。</p> <p>・いずれも目標の未達が大きいの。対応策を実施した効果推計により目標値を設定すべき。</p> <p>・開催時期を春と秋の2回に分けて開催日数を増やし、入込客の滞在人口を増やしてはどうか。</p>	<p>継続実施5</p> <p>期限を設けて実施1</p> <p>その他1</p> <p>【その他に対するコメント】 前回は宿泊施設の絶対数が足りなくて訪問客が近隣自治体へ流れたことや、作品会場周辺や中心的施設となった「道の駅すずなり」周辺での食事処が少なく、コンビニが援護してくれた。会期中限定で簡易食堂開設(三崎町のへんざいもん)を地域の有志にお願いできないか(飯塚食堂の形式)。</p>	
2			<p>■アート作品及びサポーター組織の運営管理 事業費:5,000千円(実績5,000千円) 概要:アート作品及びサポーター組織の運営管理 実施主体:奥能登国際芸術祭実行委員会 支出方法:負担</p>		<p>・新しく集めるのではなく、集まっている所へPRをしに行く。</p> <p>・事業の見直しはもちろんだ。宿泊・飲食等各分野の専門家の意見もまとめる。</p> <p>・作品の権利の問題、残る作品と残らない作品を契約の段階でチェック。</p> <p>・ゲストハウス、民泊を開業した場合の利益をどう試算するのか。交流人口の見込み、施設の数や宿泊料金、人件費等、数的に考慮する。特に長期的に見ているかが大切。</p> <p>・宿泊、飲食施設の増強対策が必要では。</p> <p>・しみず喜楽会、上黒丸有志、飯塚地区の皆さんのお陰で「おもてなし」の効果があつたが、人気作品会場となった正院地区ではボランティアスタッフが足りなくて一部の人が昼食抜きで対応された。人気スポットが確認された会場では、朝のミーティングで人員配置をしっかりと確認しながら、ボランティアスタッフから不平不満が出ないように配慮が必要。</p>				不要1
3			<p>■滞在交流施設日置運営管理業務 事業費:4,500千円(実績3,206千円) 概要:遊休施設を活用した滞在交流施設日置の運営管理 実施主体:珠洲市 支出方法:委託</p>	<p>・事業を市民1人1人が理解する</p> <p>・絶えず効果検証はすべき</p>					
5			<p>■珠洲市空き家ホテル開発プロジェクト 事業費:4,698千円(実績4,698千円) 概要:前年度の検討内容を基に具体的な事業計画を立案し、民泊の推進等と併せて空き家の利活用に向けた具体的な取組を実施 実施主体:珠洲市 支出方法:委託</p>	<p>空き家ホテル事業確立の見通しは立ったのか。</p>					
6			<p>■関連アートプログラムの開催 事業費:4,666千円(実績4,666千円) 概要:芸術祭開催後の常設展示を活かしたイベントや子ども向けワークショップ等、芸術祭に関連するアートプログラムを実施 実施主体:珠洲市 支出方法:委託</p>	<p>効果の測定に伴う反省、対応等も表記すべき</p>					

平成30年度地方創生推進交付金事業に関する効果検証結果(R1.7.1議会による検証)

No.	交付金種別	対象事業名	交付金を活用して実施した詳細事業	事業の効果に対するコメント	事業見直しの必要性	実績に対するコメント	数値目標に対するコメント	今後の事業実施について
1	地方創生推進交付金	能登半島の先端にレジリエントな「知」と「共創」のSDGsプラットフォームづくり	<p>■能登SDGsラボの設立運営 事業費:5,000千円(実績5,000千円) 概要:市内の現場サイドに存在する地域課題を解決するためのワンストップ窓口として、地域課題解決のコーディネーション機能と「知」と「共創」のプラットフォーム機能を備えた「能登SDGsラボ」を金沢大学能登学舎内に設置し、プランチとして位置付けられた連携するステークホルダーと共同で運営 実施主体:珠洲市 支出方法:負担</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・UIターンの実績が少ない。UIターンのための新たな施策が必要。 ・市民が営業マンになるPR。 ・広く市民の意見を集約する。 ・UIターン以外の在住者も考えれば。 ・ジアス「世界農業遺産」に認定され、豊かな里山里海にかこまれているが、過疎、少子高齢化が深刻な課題である。とりわけ次世代を担う若者の定住や移住が課題となる。昨年の10月にいち早く能登SDGsラボを設立し、産学官金の共同運営が始まったが、雇用の場を増やす一次産品の付加価値向上などや六次産業化への対応など「官民協働」が重要であり、市民が最も出入りする機会が多い市庁舎にSDGs未来都市選定を知らせる懸垂幕を掲げて広く市民にアピールを促し、市民を巻き込んで「共創とひとつづくり」を目指すべき。 	<p>必要2 ・期間終了後、多くの人の意見、提言を聞く。 ・予算の見直しと詳細に公開すべき。</p> <p>不要4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI②(人材養成事業受講者数)及びKPI③(能登SDGsラボへの相談件数)は具体的な効果が実感できない。 ・ラボの必要性をあまり感じない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UIターンの実績値が低い。実情に合った目標値とすべし。 ・その時々に見直しをする。 	<p>継続実施4 期限を設けて実施1 その他1</p> <p>【その他に対するコメント】 今のところSDGsを理解するところまでの事業、この先が問題。市民は何をどうすればいいのかよく分からない。それとも個人の生き方の問題なのか。</p>